



知っておきたい感染症

(公社) 東京都医師会

感染症

病原体がヒトや動物の体の中に入り込んで増殖することを**感染**といい、熱、咳、下痢などの症状があらわれたとき**感染症**と呼ぶ

体の中に病原体がいるだけの時は**保菌**という
ヒトからヒトに直接うつらない日本脳炎のような感染症もある

病原体

大きさや構造により、
細菌、ウイルス、カビ（真菌）、原虫などの種類がある

まず、感染症とはなんでしょう。（スライドを読む）感染症というと、人から人にうつると思われそうですが、直接はうつらない病気もあります。

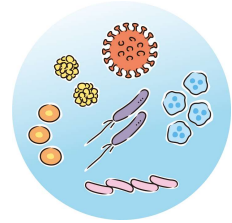
微生物が全部ヒトや動物に病気を起こすわけではありません。病気をおこすものを、病原微生物といいます。

原虫とは、単細胞の微生物で、病原性のあるものでは、マラリア原虫やトキソプラズマなどがあります。

微生物がからだにくっついていてだけでは感染とはいいません。細菌が皮膚の表面などにくっついていてときは保菌といいます。微生物が体内で増えたときを感染、それによって病気の症状がひきおこされたときに、感染症といいます。

伝染病という言葉もありますが、ヒトからヒトにうつる場合をこう呼ぶという意見もあります。感染症であっても、ヒトからヒトにはうつらない日本脳炎などの病気もあります。

■ 昔は感染症の原因はわからなかった



- 微生物は目に見えない
- 原因がわからず、ヒトがバタバタ死んでいくのは怖い
- 伝染する
 - ーヒトにうつす（申し訳ない）
 - ーヒトからうつされる（迷惑）

よくわからない病への恐怖 → 自分は大丈夫かとの不安 → 患者への差別

現在は、感染症の原因も感染経路（感染の仕方）もほぼわかってきているので対応も考えられるし、感染症の種類によってはワクチンや抗菌薬（抗生物質）や抗ウイルス薬もありますが、それらの知識や薬が無い時代はどのくらい怖かったでしょうか。

今でもワクチンや薬（治療法）がないものは、怖いですね。

■感染症は人の動きにつれて広がり 歴史も変えた



- 14世紀ヨーロッパではペストが流行し、人口の3割（3000万人）死亡

* ベネチアでは、船から伝染病が広がることに気づき、疑わしい船を港の外に、疫病の潜伏期間にあたる40日間強制的に停泊させた

検疫quArAntineという言葉は、ベネチア方言の40日という言葉から
検疫は、感染症の流行予防に効果があった
現在は飛行機で移動するので、空港などで人や貨物などを検査する

- 1492年コロンブスのアメリカ大陸発見で、
新大陸へ天然痘が流入
アステカ王国、インカ帝国が滅亡
- 産業革命による人口の集中、環境悪化の影響で、
19世紀ロンドンでコレラ、結核が流行

船で移動している時代は、検疫といって、船を40日間沖合に止めておいて、潜伏期間内にある患者が発症するかどうかを見極め、感染症の患者が発生しなければ入国させていました。これにより、ペストの侵入などを防げたそうです。

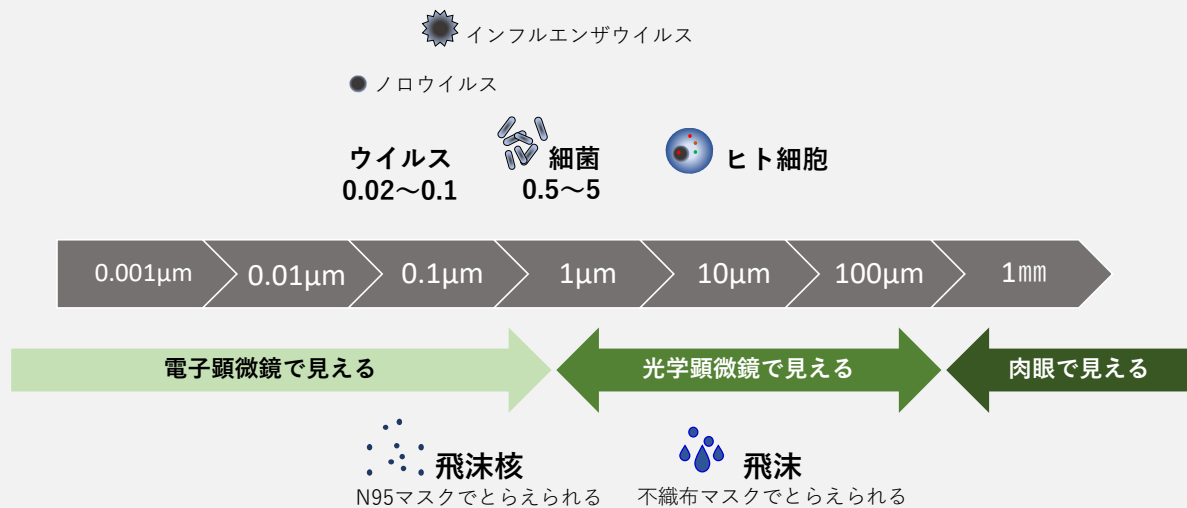
飛行機で移動する現代では、海外で発生している感染症にかかっている人も、まだ発症していない潜伏期間内に入国してしまうので、海外の感染症の流行状況にも目をくばる必要があります。

2009年の新型インフルエンザの発生時も、検疫では患者の入国をとめることはできませんでした。

■ 病原体の発見

17世紀後半にオランダの商人レーウェンフックは、自作の顕微鏡（光学）で微生物を観察

いろいろな病原体の大きさ



さて、17世紀、オランダの商人（織物商）のレーウェンフックは、自作の顕微鏡で身近なものを観察し、小さな動く生き物を発見しました。

しかし、見つかった微生物が感染症の原因であることはまだ証明できませんでした。

当時は、感染症の原因ではなく結果としてその微生物が存在しているとかんがえられていたそうです。

また、レーウェンフックの顕微鏡では、細菌はみえましたが、ウイルスは小さすぎて見えませんでした。

■ 感染症の成り立ちに必要な3つの要因

感染源

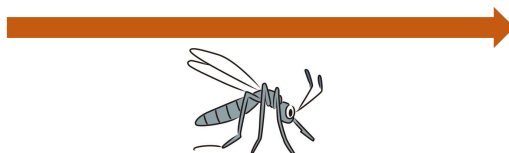
病原体（細菌・ウイルスなど）を持った人や動物

感染経路

- 飛沫（ひまつ）感染
- 空気感染＝飛沫核（ひまつかく）感染
- 接触感染
- 動物・昆虫などの媒介感染

感受性者

病原体に感染する力のある人や動物



細菌などの微生物が感染症の原因になっていることがわかりましたが、感染症が発生するには、病原体を持った感染源があり、感受性者といってその病原体に感染する力のあるヒトや動物がいて、感染経路が存在する必要があります。

病原体によって、感染経路が異なります。感染症が広がらないように、感染症にかからないようにするには、感染経路を知っておくことも大切です。

たとえば、空気感染（飛沫核感染ともいいます）をするのは、麻疹（はしか）、水痘（水ぼうそう）、結核といわれています。同じ部屋にいただけで感染するといわれます。

感染経路を断ち切ることで、感染の予防ができるので、経路ごとの対策を知っておくことが大切です。

また、感受性ということについては、狂犬病はイヌばかりではなく、スカンクやコウモリも、ヒトも感染するので、それらの動物にも感受性があるといえます。

この感染源、感染経路、感受性者の3つそれぞれに対策をとれば、感染症が予防できることになります。

■ 感染症を防ぐには3つの要因それぞれに 対策を

感染源対策

発病者の早期発見と治療、汚染されたものの消毒

感染経路対策

- 手洗い、咳エチケット（マスク）、虫よけなど
- 清掃、下水道の整備など公衆衛生的な対策
- 学級閉鎖など

感受性者対策

- 睡眠・休息、栄養
- **ワクチン（予防接種）**

飛沫感染

(1) 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出

(2) 別の人が、そのウイルスを口や鼻から吸い込み感染



※主な感染場所
学校や職場、満員電車などの人が多く集まる場所

接触感染

(1) 感染者がくしゃみや咳を手で押さえる

(2) その手で周りの物に触れて、ウイルスが付く

(3) 別の人が、その物に触って、ウイルスが手に付着

(4) その手で口や鼻を触って粘膜から感染



※主な感染場所
電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

首相官邸ホームページより（図）

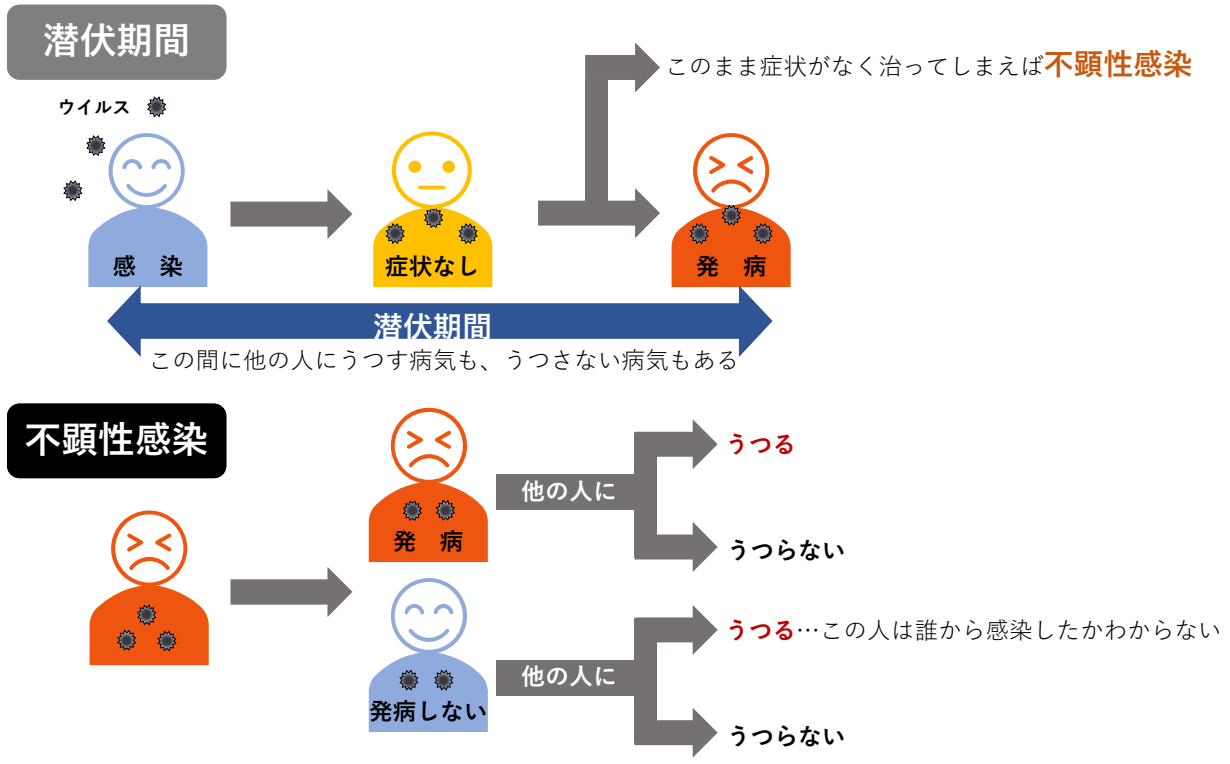
飲み水とトイレの場所をわけることで、コレラなどの感染症は減りました。

きれいなことをする前に、目や口や傷口に触る前に、または汚いものに触った後に、手を洗うことは意味があります。（でも、あまりに神経質になりすぎないでくださいね）

海外ではマラリアやデング熱など、蚊にさされて感染する病気が沢山あり、その場合は虫よけは大事です。日本でも、山の中でマダニにさされて感染する病気などもあり、山の中に入る場合に長袖長ズボンの着用が大事なケースもあります。空気感染の場合は、感染力にもよりますが、換気は有効な予防手段です。

体力を高める、免疫力を高めるために、睡眠や栄養も大事ですが、一番効果があるのはワクチンです。ただし、残念ながらまだ有効なワクチンが開発されていない病気はたくさんあります。

■ 潜伏期間と不顕性感染



感染症にかかっているけれども、症状がみられない場合があるということの説明です。

潜伏期間とは病原微生物が体の中で増殖しているけれども、まだ症状はでていない状態です。感染してから発症（症状がでる）までの時間を、潜伏期間といいます。

潜伏期間中であっても、他の人にうつる病気もありますし、潜伏期間中はうつらない病気もあります。

また、感染しても症状がでないまま終わってしまう場合を、不顕性感染といいます。本人は気づいていません。不顕性感染の場合でも、周囲に病気をうつす感染症もあります。不顕性感染の人からうつると、感染経路がわからなくなります。

■ 免疫とは？

**疫（えき）＝病気
免れる（まぬがれる）**

- ・そもそもは、同じ感染症に二度目はかからないという現象をさしていた
- ・今では「病原体による感染症から体を守るための仕組み」を広く免疫と呼ぶ
- ・体内に侵入した細菌・ウイルスなどを異物（自分以外のもの）として、白血球やリンパ球などの細胞や、抗体などの働きを使って攻撃する

さて、免疫とはなんでしょうか。

昔の人は、一度感染症にかかると同じ感染症には二度とかからない能力を獲得することを体験的に知っていたようです。この能力を免疫といいます。

この、免疫を利用して感染症を予防しようと考えてつくられたのがワクチンです。

■ ワクチンは打った方がいい？

ワクチンの有効性

- ・ 発病予防
- ・ 重症化予防
- ・ 集団免疫の獲得



ワクチンによる副反応

- ・ 副反応と健康被害
- ・ 副反応への対応

正確な薬剤情報 接種費用と接種機会

ワクチンは健常者に接種します。ワクチンの正確な薬剤情報と接種費用、接種機会を多くすると共にどのような接種体制（集団接種や個別接種）が望ましいか検討します。

ワクチンの有効性は、発症を予防する効果や疾病の重症化予防があり、接種率が高い場合は集団免疫を獲得し、社会的な防衛に役立ちます。一方、時としてワクチン接種後に局所的な副反応やアナフィラキシーショック等の重篤な副反応を起こすことがあります。接種医療機関では副反応の対する準備を怠ってはいけません。

なお、定期接種における健康被害に対して国が補償する制度があります。

ワクチンの副反応（副作用）は？

- ほとんどは接種した場所が赤く腫れるなどの、軽いもの
- 少し熱がでたり、発疹がでたり（麻しんワクチンなど）
- ポリオの生ワクチンは、ごく稀にマヒをおこすことがあったが、現在使用されている不活化ワクチンではみられない
- 昔、ワクチンの製造方法が未熟だった時代は、弱毒化がうまくいかなかったり、安定剤として入っていたゼラチンでアナフィラキシーショックが起きたりしたこともあったが、現在では改善された
- 通常、自然にその病気にかかるよりも、ワクチンによる副反応のほうが軽い

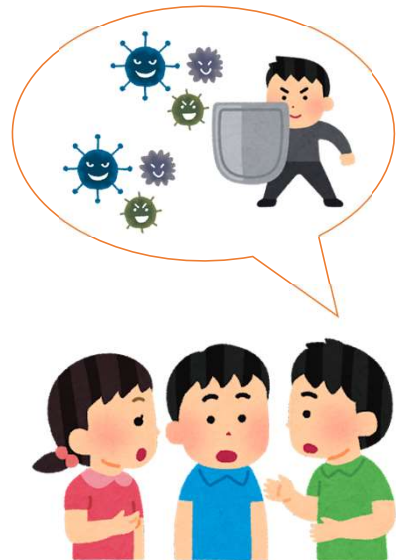
ワクチンの安全性あるいは副反応は、ワクチンを接種する場合としない場合の比較ではなく、ワクチンによる副反応がおこる確率と自然にその感染症にかかったときにおこる病気の重さをくらべなければならないこと、そのうえで自然に感染症にかかる確率を考えて、ワクチンによってえられる利益が副反応のリスクを上回っているかどうかを判断しなくてはなりません。

新しい感染症と戦ううえでも、ワクチンで予防できる病気はきちんと予防しておくべきだと思います。

また、ある集団の中で一定割合の人が感染症にかかったりワクチンを接種して免疫を持つと、その感染症は流行しなくなり、免疫を持っていない個人も守られることになります。そのことを集団免疫といいます。

■ みんなで考えてみよう

- ・どんな名前の感染症があるでしょうか？
- ・その感染症は、体のどこに症状が出るのでしょうか？
- ・その感染症は子どもがかかりやすい？ 大人がかかりやすい？
- ・その感染症に自分がかからないために、どんなところに気を付けますか？



ここで、参加している人たちに感染症について考えてもらいましょう。
(次のスライドからは、さまざまな臓器で起こる感染症を見ていきます)

どんな名前の感染症があるのでしょうか？

その感染症は、体のどこに症状が出るのでしょうか？

(胸が苦しくなると思う人、お腹が痛くなると思う人、と手を挙げてもらっても良いかもしれません)

その感染症は子どもがかかりやすいのでしょうか、大人がかかりやすいのでしょうか？

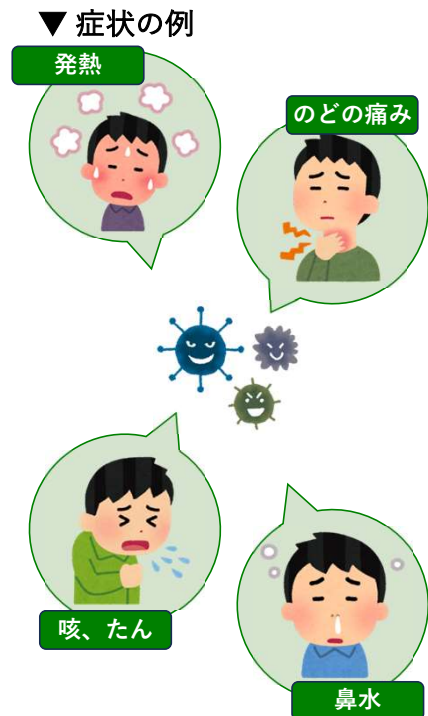
その感染症に自分がかからないために、どんなところに気を付けますか？

■ 風邪

概要：主にウイルスに感染することで起こる、鼻やのどの感染症

症状：発熱、咳、たん、鼻水、のどの痛みなど

治療：症状を緩和する薬を使用する（対症療法） 休養と水分摂取を心がける



風邪は、正式には「風邪症候群」といいます。原因のほとんどはウイルスによるもので、上気道すなわち鼻腔・咽頭・喉頭に起こる感染症です。

症状は、発熱・全身倦怠感などの全身症状や、咳嗽・喀痰・鼻汁・鼻閉・咽頭痛といった多彩な症候を呈しますが、多くは一週間ほどで自然に治ります。

風邪に特異的な治療薬はなく、症状を緩和する対症療法薬が中心になります。また、十分な休養を取り、こまめな水分補給を心掛けることにより、脱水にならないように気を付けます。

予防には日頃から適度な運動とバランスのよい食事で体力づくりを行い、風邪に対する抵抗力をつけておくことが重要です。

■ 結核

概要：結核菌によって起こる日本の主要な感染症で、今でも年間に1万人以上の新しい患者が発生している

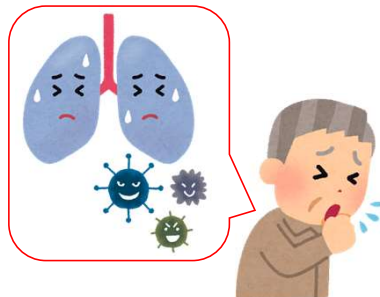
症状：2週間以上続く咳、たん、微熱、体のだるさなど

予防：BCGワクチン

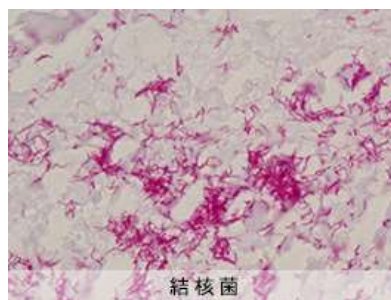
対応：保健所は接触した疑いがある人に対して接触者健診を実施する 学校では問診による結核健診が行われる

引用：公益財団法人結核予防会・結核研究所

▼ 概要



▼ 結核菌の画像



結核は結核菌に感染することで起こる感染症です。今でも年間に1万人以上の新しい患者が発生し、1,000人以上が命を落としています。

結核の症状（咳、たん、微熱、体のだるさなど）には特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに病院を受診しましょう。

BCGは結核を予防するために接種するワクチンです。赤ちゃんの時にBCGを接種することにより、結核の発症や重篤な髄膜炎を予防することができます。

医師は結核と診断した場合、感染症法という法律に基づきただちに最寄りの保健所に届け出なくてはなりません。感染の連鎖を断つために、保健所は接触した疑いがある人に対して接触者健診を実施します。学校では結核の早期発見・早期治療の機会を確保するため、問診による結核健診が行われます。

B型肝炎

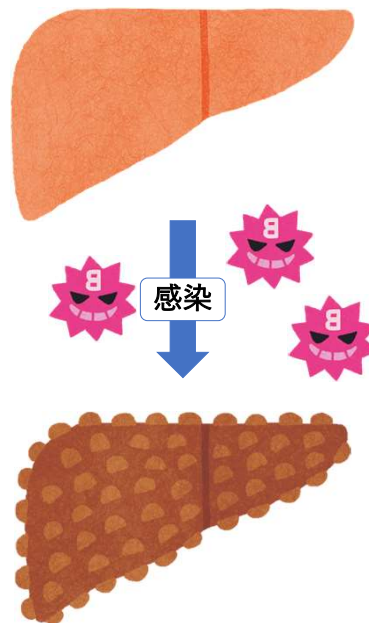
概要：5種類あるウイルス性肝炎のうち、B型肝炎ウイルスの感染によるものがB型肝炎と呼ばれる

感染経路：血液に触れることで感染を生じるため、出産時の母子感染や性行為感染のほか、薬物使用者による針の使い回しでも感染が起こる

症状：皮膚や眼球結膜の黄染、褐色尿、激しい倦怠感、悪心、嘔吐、腹痛などが数週間続く

引用：国立国際医療研究センター・肝炎情報センター。

▼ 概要



B型肝炎は肝臓の病気です。主に5種類（A型からE型）あるウイルス肝炎のうち、B型肝炎ウイルスの感染によるものをB型肝炎と呼びます。世界では推定で2億4000万人がB型肝炎に感染しています。

B型肝炎は主に血液に触れることで感染を生じます。出産時の母子感染や性行為感染のほか、薬物使用者による針やシリンジの使い回しでも感染が起こります。

B型肝炎ウイルスは皮膚や眼球結膜の黄染（黄疸）、褐色尿、激しい倦怠感、悪心、嘔吐、腹痛などの数週間続く急性症状を起こすことがあります。また一部の人に肝臓に持続的な感染を起こし、後に肝硬変や肝臓がんに進展させます。

B型肝炎ワクチンの接種は、B型肝炎や将来の肝臓がんの予防として行われます。

■ 食中毒

概要：食べ物が原因で下痢や腹痛、発熱、吐き気などの症状が出る病気の総称

原因：細菌では腸管出血性大腸菌やカンピロバクター、ウェルシュ菌が原因として多い ウイルスではノロウイルス、寄生虫ではアニサキスなどが原因になる

予防：細菌を食べ物に「つけない」、付着した菌を「増やさない」、消毒で「やっつける」

引用：農林水産省ホームページ. 食中毒の原因と種類.

▼ 概要



▼ 食中毒予防の三原則



食中毒とは、食中毒を起こすもととなる細菌やウイルス、有毒な物質がついた食べ物を食べることによって、下痢や腹痛、発熱、吐き気などの症状が出る病気の総称です。

食中毒の原因は細菌、ウイルス、寄生虫、化学物質などさまざまです。細菌では腸管出血性大腸菌やカンピロバクター、ウェルシュ菌の順に原因としては多く、ウイルスではノロウイルス、寄生虫ではアニサキスなどが原因になります。

食中毒を防ぐためには、細菌の場合は、細菌を食べ物に「つけない」、食べ物に付着した細菌を「増やさない」、食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」という3つが原則となります。ウイルスの場合はそれに加えて、感染した人が調理場内へ立ち入らないなど、ウイルスを「持ち込まない」、「ひろげない」ことが重要です。

■ ウイルス性結膜炎

- 流行性角結膜炎（アデノウイルス感染症）
- 咽頭結膜熱（アデノウイルス感染症）
- 急性出血性結膜炎（エンテロウイルス感染症）

感染予防：手をよく洗う、
目を触らないこと



※かかったら主治医の許可がでるまで登校できません

ウイルス性結膜炎である流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、急性出血性結膜炎は、感染力が強い上に有効な治療法はありません。

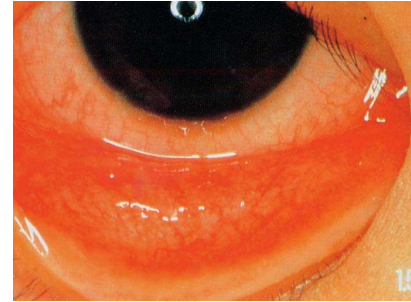
このため、感染拡大の予防が非常に大切です。

どの結膜炎も接触で感染していくため、きちんとした手洗いをするのと、むやみに目を触らないことを心がけてください。

一度かかってしまうと、咽頭結膜熱では症状が消えて2日経つまで、流行性角結膜炎と急性出血性結膜炎では主治医の先生の許可が出るまで登校できません。

■ 流行性角結膜炎（アデノウイルス感染症）

- 潜伏期間：7-14日
- 症状： 瞼の腫れと、白目（球結膜）の充血
目やには少なく、むしろ涙目
ごろごろした感じや不快感が強い
耳の前のリンパ腺が腫れる
- 経過： 症状が出てから徐々に悪化し、
1週間を過ぎた頃からよくなりだし、
2-3週間で治ることが多い
角膜混濁を残すことがある



慈愛眼科クリニック
亀井裕子先生提供

潜伏期間が長いため、どこで移ってしまったのかわからないことが多いです。

症状は、瞼の腫れと、白目の充血が特徴的です。

目やには少なく、むしろ涙目になります。ごろごろした感じや不快感が強いことも特徴です。

耳の前のリンパ腺が腫れることが多く、しこりをふれたり、口を開けたりすると痛かったりします。

症状が出てから3～4日は悪化していきます。1週間を過ぎた頃からよくなりだし、だいたい2～3週間で治ることが多いです。

まれに、角膜混濁を残し、視力が低下してしまうことがあります。

咽頭結膜熱（アデノウイルス感染症）

- 潜伏期間：7 日
- 症状： 瞼の腫れと、白目（球結膜）の充血
扁桃腺炎を合併する咽頭炎
発熱 38-40度
- 経過： 症状が出てから徐々に悪化し、1 週間を過ぎた頃からよくなりだし、2 週間までに治ることが多い
- 注意： ウイルスは腸管、泌尿器でも増殖
症状がなくなっても糞便中にウイルスが出る

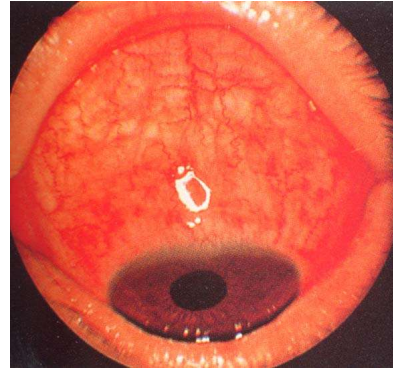
潜伏期間は大体 1 週間です。症状は、瞼の腫れと、白目の充血で、これは流行性角結膜炎と同じです。

結膜炎症状は流行性角結膜炎よりやや軽いことが多いのですが、扁桃腺炎を合併する咽頭炎がみられ、38～40度の発熱がみられることがあります。

症状が出てから 2 週間くらいまでに治ることが多いです。ただ、ウイルスが腸や泌尿器でも増殖するため、症状がなくなっても糞便中にウイルスがでます。当たり前のことですが、トイレの後の手洗いはしっかり行ってください。

■ 急性出血性結膜炎（エンテロウイルス感染症）

- 潜伏期間：24時間以内
- 症状： 強いごろごろ感
大量のめやに
白目の出血を伴う強い充血
瞼・白目のはれ
- 経過： 症状が出てから3日目
にはよくなりだし、4-5日
で治ることが多い



慈愛眼科クリニック
亀井裕子先生提供

潜伏期間は大体1日ですので、どこで移ったかわかることが多い結膜炎です。症状は、強い異物感、ごろごろした感じで始まります。

拭いても拭いても溢れるように大量のめやにが出ます。

白目の出血をともなう強い充血が特徴で、涙に血が混じったり、瞼にも出血がみられることがあります。

瞼や白目はとても腫れます。

症状が出てから3日目にはよくなりだし、4～5日で治ることが多いです。

■ 中耳炎

正常な鼓膜



急性中耳炎



耳痛、難聴

滲出性中耳炎

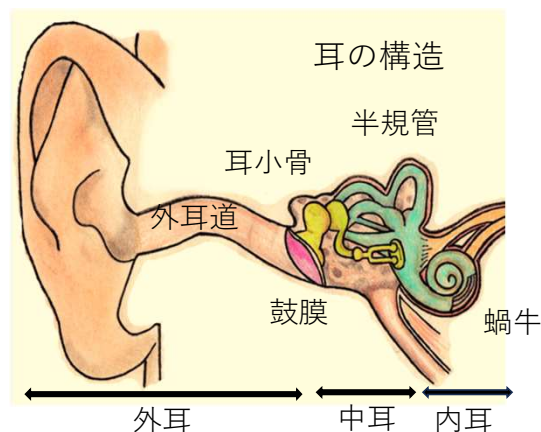


耳が詰まった感じ

慢性中耳炎



難聴、耳だれ



耳の構造はこのようになっていて、耳の穴の突きあたりにある、音を感じる鼓膜のすぐ内側に、中耳というところがあります。

耳の感染症の代表が、この中耳に炎症が起こる急性中耳炎です。風邪が原因で鼻やのどに細菌の感染が起こって、鼻、のどと耳をつなぐ耳管という管を通して細菌が中耳に入って炎症を起こします。

正常な鼓膜はこのように真珠色ですが、急性中耳炎になるとこのように鼓膜が赤くなって、耳が痛くなり、聞こえ方も悪くなります。

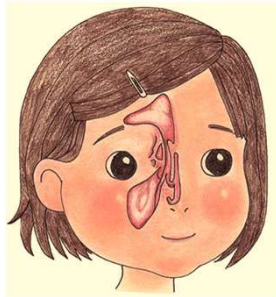
急性中耳炎がちゃんと治らないまま長引くと、滲出性中耳炎という病気になって、このように鼓膜が濁った色になり、中耳に水が溜まって、痛みはありませんが耳が詰まった感じになったり、聞こえ方もやはり悪くなります。

溜まった水を出すために、鼓膜にチューブを入れることもあります。

また急性中耳炎に繰り返していると、慢性中耳炎といって、このように鼓膜に穴が開いて、耳だれという膿が出てきたり、聞こえ方ももっと悪くなって、ひどくなるとめまいを起こすこともあります。

水泳については、急性中耳炎で耳が痛かったり聞こえ方が悪いときには、耳鼻科クリニックで治ったと言われてからにします。滲出性中耳炎で鼓膜にチューブが入っているときには、耳栓をすれば大丈夫ですが、潜水、競泳、飛び込みは禁止です。慢性中耳炎で、鼓膜に穴が開いていて膿が出ているときは禁止で、膿が出ていなくても耳栓をして耳に水が入らないようにします。

■ 副鼻腔炎



鼻の周りには副鼻腔という4か所の空洞があり、その部分の炎症を副鼻腔炎と言い、1か月以内に治まるものを急性副鼻腔炎、2か月以上続くものを慢性副鼻腔炎と言う

原因：急性副鼻腔炎は風邪のことが多く、慢性副鼻腔炎は急性副鼻腔炎が長引くか、アレルギー性鼻炎が関係することも多い

症状：膿性（粘っこい）鼻水、鼻づまり、鼻水が喉に降りる（後鼻漏）、臭いがしない（嗅覚障害）、頭痛、顔面痛、発熱など

診断：鼻の中の状態、副鼻腔のレントゲン検査、合併症が疑われる場合には、CTまたはMRI検査をする

治療：鼻からの吸入（ネブライザー）療法、慢性副鼻腔炎の場合は、マクロライド抗生剤の半量長期内服療法（アレルギー性鼻炎を持っている場合は抗アレルギー薬も併せて内服）を行う

鼻の周りには4か所の副鼻腔という空洞があって、風邪などの感染、アレルギー性鼻炎などがきっかけで、副鼻腔に炎症が起こるものを副鼻腔炎と言います。1か月以内に治まるものが急性副鼻腔炎、2か月以上続くものが慢性副鼻腔炎です。

原因は、急性副鼻腔炎は風邪のことが多く、慢性副鼻腔炎は急性副鼻腔炎が長引くか、アレルギー性鼻炎が関係すること多いです。

症状は、膿のような粘っこい鼻水や鼻づまり、鼻水が喉に降りる後鼻漏、臭いがしなくなったり、頭痛、顔の痛み、発熱などが起きます。

診断は、鼻の中の状態を診て、副鼻腔のレントゲン検査をして、合併症が疑われるときにはCTやMRI検査もします。

治療は、ネブライザーという鼻からの吸入療法、慢性副鼻腔炎の場合には、マクロライド抗生剤を普通の半分の量で長く飲んで、アレルギー性鼻炎を持っているときには抗アレルギー薬も一緒に飲んで治療します。

溶連菌感染症

原因：A群 β 溶血性連鎖球菌と呼ばれる細菌によって引き起こされる咽頭炎 2-10歳に多いが、大人でも発症する可能性がある

症状：2-5日程度の潜伏期間ののち、発熱、咽頭痛などの症状が出現する 稀にリウマチ熱や腎炎などの合併症もある

診断：のどが真っ赤に見える状態が典型的 迅速検査も可能

治療：ペニシリン系やセフェム系等の抗菌薬を指定された日数、飲み切ることが重要 たとえ症状がよくなっても、服用は中止してはならない

登園・登校について：学校保健法により、受診した日とその翌日は出席停止が求められている 抗菌薬服用24時間以上を経て、全身の状態が良ければ登校可能

溶連菌感染症は2～10歳に多く、子供の病気とされているかもしれませんが、どんな年代にでも発症する可能性があります。大人でも、中学生、高校生でも発症する可能性があります。

症状は2～5日程度の潜伏期間ののち、熱がでたり、のどが痛くなったりします。

のどが真っ赤に見える状態が典型的な所見で、10分程度で結果が得られる迅速検査も可能です。

治療は抗菌薬を指定された日数飲み切ることが大切で、たとえ症状がよくなっても服用を中止してはいけません。

もらった薬はその日から飲みはじめ、受診した日とその翌日は出席停止が求められています。

その後、熱が下がり体調がよければ、登校可能です。

口唇ヘルペス

原因：単純ヘルペスⅠ型

症状：数個の水疱が、ブドウの房のように集まってピリピリした痛みを伴う

治療：抗ウイルス剤の内服

*外用薬では、神経節の中のウイルスには効果がないので意味がない

問題点：他人（家族間が多い）から感染して一度人の皮膚に侵入してしまうと、神経の中に居座り続け、一度作られた抗体（ウイルスに対してその力を弱める力）の値が下がると再発する

抗体の値を下げる大きな要素：紫外線と疲れ



引用：日本臨床皮膚科医会



口唇ヘルペスは、単純ヘルペス（主にⅠ型）が唇に感染して生じる病気です。このウイルスは、症状が出ている人のみずぶくれ、唾液、涙液などに接触することで感染します。ウイルスが付着したタオルやコップなどの物を介して感染することもあります。

症状は、数個の水疱がブドウの房のように集まって、ピリピリした痛みを感じます。

原因はウイルスなので最初は家族間などの他人から感染し、初感染時は唇の症状も激しく、高熱がでることもあります。2週間もすればウイルスに対してその力を弱める力、すなわち抗体ができて自然に治ります。ただこのウイルスは一度人の皮膚に侵入してしまうと神経の中に居座り続け、いったん作られた抗体の値が下がったときに、再び力を強め再発して水疱を作ります。ウイルスに対して抗体の値をさげてしまう大きな要素は紫外線と疲れです。夏の紫外線の強い季節や風邪をひいた時などに出やすいのはそのためです。

治療は、ウイルスが水疱の中だけでなく神経節の中にもいるので、外用薬では効果はなく内服薬が必要です。症状が軽いからと、市販の外用薬を塗ったり、無治療で放置すると神経節の中のウイルスの増殖を抑えられず再発しやすくなります。唇に水疱ができたりピリピリした痛みが出た時には、早めに皮膚科を受診してください。

トンズランス感染症

原因：トリコフィトン・トンズランス
格闘技選手の間で流行 & 家族内
感染

症状：頭、首、上半身に好発

頭部（シラクモ）ではふけや痒み、
black dotの発現、時に脱毛

体部（ゼニタムシ）では少しカサカサしたリング状の赤い発疹
他の白癬菌と違い、角質層への侵入速度が数倍速いため感染力が強く、
一度感染すると非常に治りにくい

治療：外用薬ではなかなか菌陰性化は難しく、可能であれば内服薬による治療
を勧める

予防：①トレーニング後のシャワー励行、抗真菌剤含有シャンプーの使用、②
練習着の洗濯、③練習場の掃除、自室の掃除、④シャツやタオルの共有、
貸借りは禁止、⑤家族に格闘技の選手がいてあやしい皮疹がある場合は
早期に皮膚科専門医に受診して早期に治療すること



引用：日本臨床皮膚科医会

トンズランス感染症は、外国から持ち込まれた新しい真菌症で、柔道やレスリングなどの格闘技選手の間で流行していることが問題になっています。しかしこの病気は特殊な病気ではなく、家族内感染により主婦の方にも感染がみられていますので他人事ではありません。

白癬菌は足にできると水虫、体にできるとゼニタムシ、頭にできるとシラクモと呼ばれます。この新しい真菌は接触しやすい頭、首、体に寄生しやすいです。ゼニタムシは、少しカサカサしたリング状の赤い発疹というのが典型的です。シラクモはふけやカサブタが少しできる程度の症状の軽いものや、black dotと言われる、毛が途中で切れ、毛穴の部分が少し盛り上がって黒く広がるといった症状を呈することが多いです。ひどくなると膿が出て脱毛を生じます。しかしこの真菌の特徴として毛穴の中に入り込んで人と共生するために見た目にはほとんど症状がないことも少なくないのに、角質層への侵入速度が数倍早いため感染力が強く家族・友人にうつったり、一度感染すると非常に治りにくいという性質を持っています。

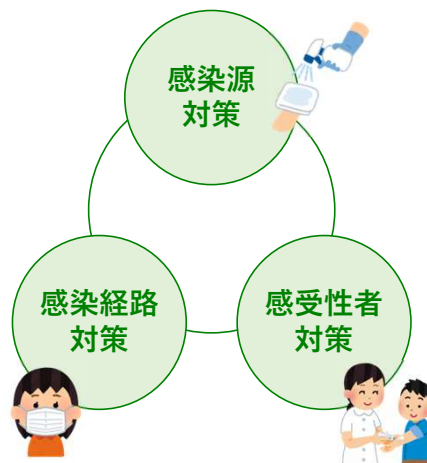
治療は、外用薬ではなかなか菌陰性化は難しく、可能であれば内服薬による治療が勧められます。

そのため、予防策が大事です。トレーニング後のシャワー励行と共に、抗真菌剤含有シャンプーの使用も勧められています。また練習着のまめな洗濯、練習場の掃除や自宅の部屋の掃除をすること、シャツやタオルの共有や貸し借りは禁止することも必要です。また早期発見が重要なので、格闘技系部活単位の集団検診と共に、家族に格闘技選手がいる場合は、怪しいと思う皮疹を見つけたら近くの皮膚科専門医を受診し、家族に格闘技選手がいることを明示して、必要があれば早期に治療を受けて下さい。

■ かからないために、できること

- ・ 感染のおこりと病原体の種類を知る
- ・ 感染症の歴史と、患者さんに起こる偏見や差別などの人権上の問題を知る
- ・ 感染症の予防について対策を立てる
- ・ 免疫の仕組みを知る
- ・ さまざまな感染症について学ぶ

▼ 感染予防の三原則



いま、自分たちができることについて
話しあってみましょう

人類は多くの犠牲者を出してきた感染症を、ワクチンや治療薬、公衆衛生の改善などにより減少させてきましたが、今後も次々と新たな感染症が登場してくるでしょう。相手の正体をきちんと見極め、正しく付き合うことができるようにしていきましょう。

ぜひ、参加している人たちで感染症を巡るさまざまな問題について話し合ってみましょう。



学校保健学校医委員会委員

任期：自）令和5年8月23日 ～ 至）令和7年5月31日

委員長	山田 正興（中野区医師会）	委員	原田 栄（杉並区医師会）
副委員長	富田 香（豊島区医師会）	委員	太田 義人（杉並区医師会）
委員	岡添 龍介（中央区医師会）	委員	友寄 広士（荏原医師会）
委員	木村美和子（文京区医師会）	委員	渡辺 剛（大森医師会）
委員	真田 玲子（葛飾区医師会）	委員	山口 俊一（調布市医師会）
委員	大江麻里子（新宿区医師会）	委員	岡田 知雄（日本大学医師会）

東京都医師会理事

弘瀬 知江子（大森医師会）
川上 一 恵（渋谷区医師会）